



SENSHOJI

2020 YUKARI NEWSLETTER

since 1994

ゆかり通信

北海道千歳市清水町1-14 鶴寶山 千正寺

VOL. 271

TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883

令和2年8月 ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

KAKUHOZAN SENSHOJI

浄土真宗的「仏教語辞典」その12

し行 続き

釈迦に説法【しゃかにせっぽう】

その道を知り尽くしている人とは知らず、ちょっとかじった知識をひけらかし、ドヤ顔で教えること。お釈迦さまに仏教を教えるようなものである。



宿坊【しゅくぼう】

寺院参拝者や僧侶のために作られた宿泊施設だが、昨今は一般にも宿泊所として解放され、その宗派の考え方に対応した様々な体験も行なうことができる。近年サービスも充実し多様な体験が出来る宿坊も増え、気軽に申込むことが出来るので、ぜひお試しを。



焼香【しょうこう】

仏前で香をたいて礼拝することをいう。極楽浄土にはなんとも言えない良い香りが漂っているといわれ、お焼香することによって仏さまの世界を偲ぶことができる。また、香りは周囲に広がることから同じ空間をシェアする一助になる。宗派によって意味や作法が違うので、葬儀などに参列の際、周りと違ったことがあってもあまり気にしない方がいい。



除夜の鐘【じょやのかね】

大晦日の夜、煩惱（欲望）を捨て去り、清らかな気持ちで新年を迎えるためにお寺の梵鐘を打つ行事。煩惱は108つあるといわれているので、108回打つののが慣例だが、参拝人が多いお寺ではそれ以上の鐘を打っているようである。



沈香【じんこう】

香木の一種でお香などの材料にも使われる。東南アジアのジンチョウゲ科の植物で、植物自体は軽いが、虫がついたときに虫に食われた部分に樹脂を分泌する。その分泌した樹脂を乾燥させたものが沈香である。

鞆帯を痛める【じんたいをいためる】

正座に慣れてない僧侶が起こしやすい怪我。長時間正座をしていると足が痺れ、感覚がないにもかかわらず、無理やり立とうとするため鞆帯を痛めて転倒してしまう。みなさんも法事や葬儀で正座しなくてはいけない場面があったとしても、立ち上がるときは急がず、痺れが取れるまで待ってから立ち上がるようになしましょう。



親鸞【しんらん】

承安3年（1173年）～弘長2年（1262年）鎌倉時代の僧侶。浄土真宗の開祖。9歳で得度し、比叡山で20年間修行するが、さとりを得ることはできず、比睿山を降りてからは法然を師とし、誰もが救われる念佛の道に生きた。自身は教団・宗派を作る気は無かったが、死後に親鸞を開祖として浄土真宗が開かれることとなった。



本文：麻田弘潤著「気になる仏教語辞典」より